大仙市シンポジウム「近代への道程―戊辰戦争と人びと―」　　2018 年 8 月 19 日

「仙台藩の視点から―秋田戦争をめぐる情報・軍事―」

東北大学大学院文学研究科学術研究員　栗原伸一郎

◎仙台藩・奥羽越列藩同盟から見た秋田戦争に至る経緯や秋田藩をめぐる情報。
◎秋田戦争に出兵した仙台藩部隊の実態や指示系統。

◆幕末期の仙台藩

・高い家格……領知高約 62 万石。国持大名／大広間席　※秋田藩佐竹家と同格。
・高い自意識①全国屈指の大藩（外様の三大藩）。
　　②奥羽の主導者（「鎮守府将軍」）→地域重視。
　　→奥羽列藩同盟を結成・主導する背景。

◆仙台藩の体制と軍事

・家臣数…直臣約 1 万人（家）、陪臣約 2 万 4 千人（家）　※地方知行制
・家臣団…一門／一家・準一家・一族／宿老・着座・太刀上・召出・平士／組士・卒
　※一門……11 家・知行約 14 万石・家中（陪臣）約 9 千人
・職制……奉行（他藩の家老）／若年寄……奉行を補佐、大番士以上の進退を司る。
・大番組……召出・平士を中心に編成。10 組約 3300 人。
　→仙台藩兵……直臣部隊（大番組など）と陪臣部隊（一門など大身給人の家中）の混成軍。
・戊辰戦争時に山立猟師の部隊を編制。農兵を動員。

1　奥羽越列藩同盟の成立と秋田戦争に至る経緯

◆仙台藩主導による奥羽越列藩同盟の成立

・慶応 3 年（1867）10 月～12 月、仙台藩の京都詰藩士は有力諸藩（西国、奥羽）と接触。
　→薩摩藩に対抗するため、全国的・地域的連携を図る。
・慶応 4 年（1868）2 月、仙台藩は「討幕」不可建白書を作成。
　→奥羽の有力諸藩（秋田藩を含む）へ協力要請。
　→秋田藩が「討幕」論であることを認識。
・閏 4 月、仙台藩と米沢藩の主導で白石会議の開催。
　→会津救済（のち庄内救済を加える）のため奥羽諸藩が結集。鎮撫総督へ歎願。
　→歎願却下後、討会軍・討庄軍を解兵。

※同盟結成前より、仙台藩と米沢藩は秋田藩を警戒。

・白石盟約（閏 4 月 22 日）、仙台盟約（5 月 3 日）により奥羽列藩同盟が成立。
→のち奥羽越列藩同盟に拡大。

・列藩同盟は、朝廷とのつながりを重視し、奥羽鎮撫総督府の下に結成する体裁。
→新政府と全面対決せず、薩（長）のみを批判し、行動の正当性を得ようとする。

・新庄にいる副総督・沢為量の確保（薩長兵と分離）をはかる。
→秋田藩に入領拒否を求める。

・列藩同盟の戦略……京都太政官への建白提出や有力諸藩との協力を図る。
→討会戦争・討庄戦争を中止させ、薩（長）を政治的・軍事的に追い込む。

・対政府軍への各藩の思惑の相違……防戦＝名分重視／積極攻勢／戦闘忌避。

◆秋田藩の同盟離脱と仙台藩

・5 月 1 日、沢為量と薩長などの兵が秋田領へ。
→5 月下旬、仙台藩、大番組と給人部隊を新庄に派遣。
※秋田藩は仙台藩へ出兵部隊の撤退を要請。

・6 月 23 日、列藩同盟は秋田藩・盛岡藩への使節派遣を決定。

・7 月 4 日、秋田藩が仙台藩の使節を殺害、同盟離脱。
→新政府軍が院内から新庄領へ。新庄藩同盟離脱。

・7 月 11 日、新庄領金山の戦いで仙台藩敗北→大番頭（大隊長）の戦死。

◆同盟諸藩内での情報共有

・秋田藩主の九条道孝宛の歎願書（会津・庄内の寛典願）。
※秋田藩家老が盛岡で提出（6 月 17 日）
→6 月下旬には、秋田藩主は同盟遵守論であるとの観測が同盟諸藩内で広まる。

・松山藩士（庄内支藩）が得た庄内征討命令の情報①[1]
……奥羽鎮撫総督府から盛岡藩へ命令→仙台藩→松山藩→庄内藩
「五ツ半頃松ノ井（＝仙台城下の屋敷）江罷出候処、若生清一郎（仙台藩士）与申仁対談之処江南部藩両人参、右若生へ逢奥之間へ通候ニ付、暫控居候処、無程若生私江向、扨当節秋田御宿陣九条殿より当七日ニ南部侯江荘内追討之　勅命下り候ニ付、右南藩両人之内田中舘伝蔵と申仁、昨夜早追ニ而到着ニ付、荘内戸田氏へ為知呉候様と申候間、早速引取帰り掛、戸田旅亭へ立寄、右之次第為申聞候事」（7 月 10 日）

・松山藩士（庄内支藩）が得た庄内征討命令の情報②
……盛岡藩が仙台藩（列藩同盟）に指示を請う。

---

[1] 「鈴木広弥出仙中御用留」（『松山藩関係文書』、鶴岡市郷土資料館蔵）。

「此頃南藩より早追ニ而参候人、一昨日頃帰藩也、荘内討手之命を蒙り候得共、兼而各藩より天朝江嘆願書差上、未タ御決答も無之ニ付而者、討手之命御請申上兼候ニ付、人数等之儀国境江差出可申哉否聞合ニ参候、早追之由、然ル処国境を越、秋田江討入候様仙藩より差図ニ相成帰藩之由」（7 月 17 日）

→盛岡藩などが列藩同盟の合議機関に報告。各藩が個別に他の同盟諸藩から入手。
秋田藩や総督府の動向に関する情報が広まる。

２　仙台藩の秋田出兵

◆仙台藩の部隊

・9 月までに出兵した主な部隊（四角は新庄での敗戦直後に出兵命令）

藩士名（部隊）	家格	在所	知行	備考	人数
伊達安芸	一門	涌谷	22640 石	家臣を派遣	8 小隊
伊達将監	一家	水沢	16130 石	家臣を派遣	2 小隊ヵ
伊達弾正	一門	岩出山	14640 石	家臣を派遣	5 小隊
伊達数馬	一家	岩谷堂	5010 石	家臣を派遣	2 小隊
三沢信濃	一家	前沢	3000 石	家臣を派遣	3 小隊
柴田中務	一家	船岡	5157 石	6 月 10 日大番頭任命	5 小隊
亘理大吉	一家	佐沼	5000 石		6 小隊
石母田備後	一家	高清水	5000 石	家臣を派遣	1 小隊
瀬上主膳	一家	鹿股	2000 石	6 月 18 日大番頭罷免	3 小隊
上遠野伊豆	準一家	大川口	800 石		不明
中村宗三郎	一家	岩ケ崎	4520 石	若年寄	3 小隊ヵ
但木左近	宿老	吉岡	1800 石	若年寄	1 小隊ヵ
今村鷲之助	平士		318 石	軍事参謀	20 人
一関藩		一関	3 万石	仙台支藩	6 小隊、大砲隊など

※『仙台叢書』や各自治体史などによる。人数は史料や時期によって相違あり。

・秋田戦争での仙台藩兵の中心は大身給人部隊（主に仙台藩領北方に知行地を有する）。
・個々の給人は、小隊の単位で派遣（1 小隊の人数等は不統一）。
・大身給人自らが出陣している場合と、家老などが名代で出陣している場合あり。
・表以外に、一関藩などは農兵を派遣。
・全軍が一斉に攻め込んだのではなく、徐々に兵を追加。

◆仙台藩の武器

・仙台藩は戦争開始前後から相当の施錠銃を購入（降伏時には仙台城にミニエー銃が約5,000 挺あったとも）。

・伊達安芸隊……兵 259 人（うち銃士・銃兵 205 人、槍士 17 人）／人夫など 155 人。
※ミニエー221 挺。

・亘理大吉隊……総勢 308 人（うち銃隊 157 人、槍士 18 人）
※「西洋銃」78 人、「古銃」19 人、「番筒銃」54 人

→出兵時、ミニエー銃 80 挺の拝借を願う。

…「和銃四匁隊」を「西洋銃隊」に編制しなければ「御他邦」兵に「合体」できず。

→自隊の武器では他部隊と統一的な軍事行動ができないと自覚。

※伊達弾正隊……6 月（新庄出兵時）、本藩に旋条銃 300 挺の払い下げを交渉（代金調達できず）[2]。

→秋田戦争時、給人部隊の装備は統一されていない[3]。

※出兵した給人部隊の窮乏[4]

…「七月十五日仙表出立、羽州大曲迄出兵仕居申候、数度之戦争、軍功之者も有之、其他困難之者ニ到候迄、手宛等不仕、引続進撃之見詰無御座候候間、此所ニ而金千両拝借被成下度、返納之義者、当物成を以上納仕候条、願之通急々被仰付候様被成下度、此段奉願候」（8 月）

→各隊は軍指導部に手当金や物資・弾薬などを要求。

◆仙台藩の指揮官

・7 月 15 日、奉行は若年寄に各部隊の「防戦進撃」を指揮するよう指示。

・同時期、列藩同盟は上山藩主松平信庸を新庄口の総督とすることを決定。

→仙台藩もその指揮下に入る予定（結局、総督を辞退）[5]

…「松平伊豆守様羽州奸賊為追討之、総督各藩仍御頼、御同人御指図次第討入候様被仰渡置候処、御同人少敷御出張御間も可有之、御出張先機会次第討入候様可被成候」

・8 月 6 日の仙台藩の軍令「総而若年寄并隊長之下知を可相守…」

・仙台藩兵の「総督」が不明瞭。対策を庄内藩に通知。

…「仙台藩若生精一郎来テ仙兵総督ナク万事不便ナルカ故ニ只木土佐カ長男左近ナ

---

[2] 友田ほか編書。

[3] 「家中諸家を中心に、近世の軍団構成そのものはかなり後まで引きずったままであった。」「新式の武器そのものは仙台藩にも相当数入っていたものとみて間違いはない。問題はその武器を活かすための軍制（軍隊編制）の近代化なのである。」（保谷書）。

[4] 以下、断らない限り仙台藩関係の引用は「秋田口軍事御用留」（『涌谷伊達家文書』、東北歴史博物館蔵）。

[5] 白河・磐城・越後方面では、同盟軍の「総督」的立場の人物を決めた（保谷書、太田論文）。

ル者ト中村惣三郎ヲシテ都督タラシムルノ趣ヲ語ル」（8 月 15 日）[6]

・仙台藩の史料では、若年寄の中村宗三郎や但木左近が「総督」と記される。
※大身給人部隊の一部が中村の「旗本」部隊に組み込まれる。

・合戦や緊急時は、軍事参謀の今村鷲之助が附属の目付を通して指示。

・8 月 12 日、一関藩は仙台藩の指揮を嫌い、庄内藩二番大隊の指揮下に入る。
…「一ノ関藩以後二番隊ニ属シテ大隊長ノ指揮ヲ受ケンコトヲ頻リニ乞フ」

◆仙台藩領の「軍事局」「軍務局」[7]

・6 月、「御境御固方主宰」を大町因幡（一族、のち大町勘解由に交代）とする。
→金ヶ崎（岩手県胆沢郡）に「軍事局」を設置。
※当初、仙台藩は秋田藩と盛岡藩を警戒。

・7 月、伊達将監（一門）が「軍事名代」となる。
→7 月 29 日、水沢（岩手県奥州市）に「軍事局」（「軍務局」）を設置（移転）。
……名代・若年寄（大町勘解由）・参謀・目付などによる協議。

・「水沢軍事局」では、秋田出兵部隊からの援軍要請や報告などに対応。
→仙台藩領北方に藩の軍事機関を設けて指示を出す。

◆出兵先での「軍事局」「軍務局」の通達

・「仙台軍務局」が各村に通達した例
…人馬の手配を命令。出兵理由を布告（8 月）。

・「軍事局」が各部隊に通達した例
…「敵之模様、苦戦之勝敗、<u>旗元江注進之義ハ</u>、治定仕候分ハ格別、聊之義ハ注進ニ及不申事…」（8 月）

・「軍務局」が各部隊に通達した例①
…「敵国と言ふ共、民百姓之品ハ取申間敷、城付并家中等之品ハ勝手次第、尤隊長之指図無之、分捕致候者ハ、<u>各藩見かけ次第斬候事ニ遂軍議候</u>」（8 月）

・「軍務局」が各部隊に通達した例②
…「安芸殿御兵隊、本道江出張之弐小隊横沢江、当宿陣之弐小隊本道江<u>即刻出兵相成候様軍務局より被仰出候末</u>、其心得首尾可被成…」（9 月 1 日）

→「水沢軍事局」だけでなく、現地の「軍事局」「軍務局」も通達を出す[8]。

◆列藩同盟名義での布告

・「諸藩軍事局」……庄内藩が各隊に略奪の禁止を布告（8 月 2 日）。

---

[6] 以下、断らない限り庄内藩関係の引用は『戊辰庄内戦争録』
[7]『日新録』
[8] 仙台藩単独の場合と、同盟軍の場合、二つの可能性がある。

・「秋田出張列藩軍事局」……庄内藩が布告した湯沢から久保田までの檄文（8月4日）。
…「秋田新庄両家之奸臣、逆賊ニ与党シ……久保田城ニ打入、正邪ヲ正シ、一二ノ奸魁ヲ戮シ…」
→秋田藩全体ではなく、薩長に味方する一部藩士を批判する。
・「当所出兵之列藩軍義府」……庄内藩の提案に仙台藩が賛成して出した各村への触。
…「奥羽内ニ而干戈を揺らし、当地江人数指加候様之義ハ、素より好所ニあらすと云共、佐竹家之義者列藩之盟約を背き、賊徒ニ組し、我藩（＝庄内藩）江人数指向ヶ候に付而者、武門之ならひ、無止事今度当所江討入義ニ而、無罪之小民聊不仁之扱等不致候ニ付、猥ニ動揺不可致事…」（8月）
→秋田領内で、「軍事局」「軍義府」など、さまざまな名義で列藩同盟の通達を出す。

◆仙台藩の撤退

・9月10日、仙台藩は降伏を決定（15日に相馬口の政府軍に歎願書を提出）。
・9月17日、庄内藩兵の撤退を把握。仙台藩降伏の情報が藩兵に広がる。
→18日、大町勘解由が到着。撤退を命令。
※仙台藩を含めて、新庄領・秋田領に攻め込んだ同盟諸藩は、個別に撤退する。

◆主な参考文献

佐々木克『戊辰戦争　敗者の明治維新』（中公新書、1977年）。
工藤威『奥羽列藩同盟の基礎的研究』（岩田書院、2002年）。
櫻井伸孝「もうひとつの戊辰戦争―秋田口の戦い―」、同「『軍事方日録』―入間田家文書―」（『涌谷町文化財友の会会報』6号・7号、2005年・2006年）。
保谷徹『戦争の日本史18　戊辰戦争』（吉川弘文館、2007年）。
友田昌宏・菊地優子・高橋盛編『岩出山伊達家の戊辰戦争』（東北大学東北アジア研究センター、2014年）。
太田秀春「奥羽越列藩同盟における公議府と軍事」（平川新編『江戸時代の政治と地域社会　第一巻』清文堂、2015年）。
拙稿「仙台藩の意思決定過程と伊達慶邦」（明治維新史学会編『幕末維新の政治と人物』有志舎、2016年）。
拙著『戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟』（清文堂、2017年）。

◆史料・自治体史等

『仙台叢書12』（宝文堂、復刻1972年）／藤原相之助『仙台戊辰史』（続日本史籍協会叢書、東京大学出版会、復刻1981年・1981年）／『磐城戊辰史』（明治百年記念事業磐城推進委員会、1968年）／和田東蔵編『戊辰庄内戦争録』（史図書社、復刊1978年）／『仙台藩維新史新記録　日新録　大郷町史　史料編一』（宝文堂、1983年）／『一関藩の戊辰戦争』（一関市博物館、2008年）／『迫町史資料1』（1974年）／『迫町史』（1981年）／『涌谷町史　下』（1965年）／『水沢市史3　近世下』（1982年）／『仙台市史　通史編5近世3』（2004年）／『仙台市史　通史編6近代1』（2008年）／『江刺市史5　資料編近世Ⅲ』（1977年）／『江刺市史2　通史編近世』（1985年）／『岩出山町史　上巻』（1970年）／『岩出山町史　通史編下巻』（2011年）／阿曽沼磨『前沢町郷土資料』（1972年）／『胆沢町史Ⅵ　近現代編1』（2002年）